

ラグビーワールドカップ2019について

■ ラグビーワールドカップについて

ラグビーワールドカップは、ラグビーナショナルチームの世界一を決定するラグビー界最大の大会で、1987年以降、4年に1度開催されている。

大会規模は開催ごとに大きくなっており、現在では、オリンピック、サッカーワールドカップと並び、三大国際スポーツイベントの一つとされている。

- ・日本大会開催時期 2019年9月～10月（約6週間）
- ・参加チーム 20チーム
- ・試合会場 日本国内10～12会場程度

■ 試合開催都市誘致について

ガイドラインでは、試合開催会場の条件として、競技場については15,000人以上の収容能力があれば、強豪国と日本を除く試合の開催が可能とされている。

【参考】試合開催会場及び収容能力

試合カテゴリー	収容能力の目安
開幕戦・準決勝・3位決定戦・決勝	60,000以上
準々決勝	35,000以上
プール戦（カテゴリーA）	40,000以上
プール戦（カテゴリーB）	20,000以上
プール戦（カテゴリーC）	15,000以上

カテゴリーA： 第1層（上位10チーム）のチーム同士、日本の試合

カテゴリーB： 第1層のチームとそれ以外のチームの対戦

カテゴリーC： 第2層（下位10チーム）のチームの対戦

● 大会の経済効果について（2007年フランス大会実績）

- 観客動員総数は148万人、平均観客数は約31,000人
- 海外からの観客の合計は133,200人
- 海外からの観客の滞在期間は6～38日
- 経済効果は、約680億円と試算されている。

※ニュージーランドで開催された2011年大会においても、同規模の海外からの観客数、約680億円の経済効果を生み出したとされている。

● スケジュール

2014年 1月	開催希望申請書の配布
2014年10月	立候補の締め切り
2015年 3月	開催都市の決定

■ キャンプ地誘致

組織委員会によると、キャンプ地選定のプロセスは、試合会場が決定してからとのこと。（2016年末ごろキャンプ地のガイドラインを策定予定とのこと）